

によりて、御子蛭子淡島を生まし、伊弉諾命、黄泉の穢を祓はんとて、禊ます時、御衣の穢よりは煩大人命、御身の穢よりは禍津日神、生まし、類也、まして人代と成て、過又は穢なきこと能ざれば、其身其毒に悩めるのみならず、子孫に傳るも常の事にて、病あれば、子も其に同き病ある事、誰も見て知べき也、世にいはゆる、胎毒と云物是也、其體にあれば、驚風、瘡、疱瘡、麻疹、蛇蟲、疝、積聚、留飲、盲、聾、瘡毒、痔、癰、勞瘵、亂心、癲癇、中風、癆など、形こそ異なれ、皆其毒の年へつゝ、長り老となるに隨て、種々に化也、猶其變ゆくさま多かれど、此に舉に暇あらず、中にも著きは勞瘵、中風、癆等ある家には、血脉に彌て、代々同産に絶ざる類也、三には、自身爲也、自身爲と云は、行あしくて、自病を釀醸を云也。

〔筆のすさび三〕一 病源藥性之説 近日醫師に、病は一氣の留滯より生すといふはさもあらん、魚は水に生じて水に養はれ、人は氣に生じて氣にやしなはるればなり、此説につゝきて、萬病一毒といふ者あり、これは通じがたきにや、たとへば胎毒結毒は人にあり、魚毒菌毒は物にあり、風毒陰陽毒は氣にかかる、これ皆毒とも云ふべし、打撲顛躓にてわづらひ、火傷水溺にて死に至り、刀劍の傷よりして命を殞し、過食にていたむは、抑何の毒なるか、米麥もと毒なけれども、多食よりも可なり、また藥に寒温なしと云ふ説ありて、試に水をあげて、汝が性いかにととはゞ、水こたへて冷といはん、沸湯にしてとほゞ、いへり、今試みに酒を擧げてとほゞ、温といはんか、冷といはんか、大抵はやく人を驚かし、門戸をたてんとおもふ人は、必かゝることある者なり、獨儒者のみにあらず、さりとて其人愚昧なるにもあらず、亦信すべきこともまゝあるべし、かゝる不稽の説ありとて、悉くもすつべからず、予香川氏の行餘醫言藥選などをよみて、その卓